さよならあ　と手を振り
すぐそこの塀の角を曲がって
彼は見えなくなったが
もう　二度と帰ってくることはあるまい

塀のむこうに何があるか
どんな世界がはじまるのか
それを知っているものは誰もないだろう
言葉もなければ　要塞もなく
墓もない
ぞっとするような　その他国の谷間から
這い上ってきたものなど誰もいない

地球はそこから
深あく虧（か）けているのだ

塀のむこう　　村野四郎